

令和元年度第2回鹿角市行政評価市民会議

日 時：令和元年9月13日（金）18時30分～20時35分

場 所：市役所 第5会議室

出席委員：8名中7名

出席職員：事務局（以下のとおり）

〔政策企画課〕課長、政策監、主査、主査

1 開会（進行：事務局）

ただいまから、令和元年度第2回鹿角市行政評価市民会議を開会いたします。

2 会長挨拶

6月に震災復興を願って岩手県太平洋側へ観光に行きました。また、今月は十和田地区民生委員の視察研修で宮城県の気仙沼市に行きました。ボランティアガイドの説明を聞き、震災遺構・伝承館などを見学して、非常に衝撃を受けました。鹿角市は震災や災害が少なく良かった、というのが参加者みんなの感想でした。

鹿角市は、十和田湖や八幡平、花輪ばやし、ストーンサークル、毛馬内盆踊りなど良いところがたくさんあります。第2回目の会議となりますが、みんなで良い鹿角市にするために忌憚のない意見をいただきたいと思います。

3 案件

（1）市民アンケートの実施結果について（資料1）

説明：政策企画課 主査

質疑応答

（委員）日頃感じていることと同じような傾向の結果だと思います。

（委員）商店街の活性化については、どこも量販店が多くなっているのが、難しい問題だと思います。

（委員）公共交通についてですが、自分の自治会で、地域乗合交通を毎週利用しています。いい事業を紹介してもらったのですが、利用する人の目的がみんな違うので、なかなかまとまりません。（路線バスについては）バス停が集落から遠くて不便なのですが、バス路線はだいたい住宅が少ない国道を通るルートなので、そもそもの運行経路が高齢者社会に合っていないのではないかと話もして、検討してほしいとお願いましたが、バス会社としては難しいようです。そういうところを積極的に改善してもらいたいです。

（委員）運動については、30代から50代が運動していないという結果ですが、私も農業をしているので、スポーツそのものではないですが、そういう面では体は動かしているのかなと思います。

（委員）効果がみられるものに「子育て支援の充実」も入っていますが、子育てをしている身からすると、これからの増税のことなど不安に感じることもあります。

(事務局) 公共交通の地域乗合交通については、担当より、自治会の負担はあまり大きくなく順調に進んでいると聞いていました。利用する方の個別の目的すべてにマッチさせるのは難しいかとは思いますが、先進的な取り組みであると考えています。バス路線は、利用者の少なさから縮小してきた経緯があるので、運行経路を増やすなどは難しい状況ではありますが、幹線に出るまでの不便さが課題だと捉えています。八幡平地区で、路線バスが集落の中を通らないという状況が顕著に見られたので、今年度、タクシーを利用した実証運行をしながら、どういう支援が必要なのか検討しています。

運動の実施状況についてですが、スポーツそのものを生活に取り入れるのは難しいと思いますので、階段の上り下りなど、日常生活の中で意識して体を動かすことで、健康の増進につながるようにしていければいいと考えています。

(事務局) アンケートでは、農作業などの生活活動も含むとしたうえでの数字なのですが、結果を見るとまだ足りないと感じています。

(2) 第6次総合計画後期基本計画 重点プロジェクト評価及び施策評価について (資料2)

説明：政策企画課 政策監

質疑応答

(委員) いろいろ取り組みをしていますが、悪循環になって評価が落ちているのもあるのかなと感じます。

(委員) 移住・交流プロジェクトをC評価としています。個人的には、移住者が増えていると感じています。

移住の取り組みが雑誌に載っていたり、雑誌の企画で移住体験をする様子などが全国版に掲載されたりしているので、今すぐには結果が反映されないかもしれないですが、鹿角にしかない魅力をもっと発信できれば、数字が伸びるのではないかなと思います。

(委員) 知らない施策も多いので、周知の仕方を工夫すればいいのかなと思います。また、子育てしていて、最も大切なのは医療と教育だと感じています。それに絡んで、まちが活性化すると思うので、せっかくこのような統計などをとっているの、生かしていければいいと思います。

(委員) アンケートを子どもたちからもとったらいいいのではないかなと思います。どんなまちに住みたいか、どういう職業に就きたいかなど、面白い返事が返ってくるのではないかなと思います。

(会長) 元気に年を取りたいと思って、プロジェクト評価の8ページに載っているシルバーリハビリ体操をしていますが、指導者になるための受講者が減ってきたように感じます。シルバーリハビリ体操は筋肉をつけるようなものではなく、関節を動かしやすくするなど介護を受ける人にも役に立つ体操なので、自治会コミュニティでも取り組めば、もっと広まっていくのではないかなと思います。

昔、自分の仕事の関係で大館地区の病院など回っていましたが、産婦人科の開業医も6か所あったのが、今は一つだけになっていて、それほど出産が減っています。産婦人科や小児科もですが、内科も減っていると感じます。大きい病院を定年退職した医師もいると思うので、開業医としてでなくても、そういう人たちに来てもらって、空き家とかで診察してもらえたらいいのではないかなと思います。

(事務局) 医師、医療体制の充実については、地域医療推進員も配置しているので、いろいろな手立てで検討していきたいと考えています。以前は精神科医がいないという課題がありましたが、取り組みの結果、

2名の精神科医が確保できていますし、泌尿器科の常勤医も確保できています。地域の状況も変わりますので、住みやすいと感じてもらえるよう、引き続き取り組みます。

シルバリーハビリ体操については、2級指導士も養成できましたので、市全域で普及拡大するよう、今後も引き続き取り組むこととしています。

市民アンケートについては、市の政策についての評価という趣旨のアンケートですが、今年は、中高生を対象に、これからの鹿角市がどのようなまちであればいいのか、自分が将来どのような能力を活かして活躍していきたいのかというアンケートを実施していて、現在集計しているところです。別の機会にまとめたものをお示しできればと思っています。

全体的な話で、取り組みを周知した方が良いというご意見がありましたが、評価が確定した時点で市民にお知らせしますし、市民アンケートも広報に概要版を載せて、すべてのアンケート結果も図書館やホームページで見られるようになっていきますので、周知につながれば良いと思っています。

(会長) 移住に関して、移住者が自治会に加入してくれない、地域の中に入ってくれない、どのように接すればいいのわからないという問題も起きています。

(事務局) 市の窓口を通して移住してきた方には、自治会に加入するようお願いしています。地域の協力なくしては暮らしていけない環境の方もいますので、できるだけ呼びかけはしています。

(事務局) 雑誌などで移住の情報発信をしているが、移住者が思ったほど多くないというご意見につきましては、移住者数はこの通りですが、去年はLINEを利用した移住相談のPRも進めましたので、今後もさらに情報発信に取り組んでいくことで、移住者増につなげていきたいと思っています。

学校教育の充実も大切というご意見があったかと思いますが、「要推進」でも上位に入っているのも、市民のニーズがあると受け止めています。特徴的な取り組みとしては、ふるさとキャリア教育が挙げられますが、鹿角で力を入れているものであり、このような教育によって愛着がわくことで、一度進学のために鹿角を離れても、何かしらふるさとへ貢献したいという気持ちにつながるといいますので、引き続き取り組んでいきたいと思っています。

(事務局) 医療と教育が大切というご意見についてですが、例えば、学力や学校経営など、教育にもいろいろあると思いますが、どのような点か教えていただければと思います。

(委員) 先生方の働き方改革などで動きにくくなっていると思いますが、もっと外に目を向けてほしいと思います。高校生の自分の子どもが、海外に行く機会があり、帰ってきたらすごく変わりました。市内の中学生が海外交流（ショプロン市とのスポーツ交流）をしたようですが、参加した子が帰ってきたら生き生きしていたという話も聞きました。海外で活躍する日本人の話を聞いたり、交流したり、外を見る目を養う環境づくりを親が出来ればいいのですが、限界があるので、教育の場で出来ればうれしいです。

(事務局) 子どもが刺激を受けてステップアップ出来るような機会が持てれば良いということですね。

(委員) はい。自分の子どもは花輪ばやしを紹介したいと考えたようですが、それによって交流が深まるし、地元への愛着も生まれると思いました。何をお土産に持って行こうかなど、自分で考えることで、日本の文化を知るきっかけになりますし、子どもの時にいろいろ経験したり感じたりすることで可能性が広がると思いました。

(事務局) 例えば葛飾区との交流は、今はこちらに来てもらって農業体験してもらっていますが、こちらから葛飾区に行って何か体験するのもいい機会になると思います。修学旅行でも、今はいろいろな体験活動

を重視して取り組んでいるようです。

(委員) 子育て支援の充実について、孫が保育園に通っていて、体調を崩すとすぐ迎えに来て欲しいと連絡がきます。そういう時の受け皿というか、厚生病院でもそういう事業があるようですが、予約していないと使えないと聞いたことがあります。具合が悪くなるのは急なことなので、そういう対応を考えてもらいたいと思います。うちは同居しているので、(祖父である) 私が親の代わりに迎えに行ったりしますが、「若い夫婦だけで暮らしている人たちや共働きしている人たちは大変だろう」、「子どもを持つ気になれないよね」、という声を聞きます。

(委員) さくら保育園では病後児を預かってくれます。

(事務局) 保健師さんのもとで預かってもらう病後児保育や、あらかじめ病院で診察してもらって預かる病児保育があります。体調が悪い時は、まずは病院に行かなければならないでしょうから、親が迎えに来られるまでは待つていただくような柔軟な対応はしています。

(事務局) 厚生病院の病児保育では、以前は利用するにはハードルが高かったようですが、今は当日、電話1本入れれば利用できるはずですが、ただ、医師の診断が必要なので、一度診察してもらう必要があります。ニーズがあって始めている事業なので、柔軟に対応していきたいと考えています。

(委員) 病児保育についてですが、子どもたちが熱を出したりしたら親が看るのが本当は一番いいと思います。しかし、どうしても出来ないのは、仕事があるからであり、保育園や病院に求めることも大事かもしれませんが、私は、安心して休んでも大丈夫ですよという職場を作ることの方が大切だと思います。子どもにとっては、具合が悪いとき、親がそばにいる方が安心すると思います。自分の子どもを保育園に預けていますが、保育園に出来ることも限られますし、今の保育士さんは低賃金で、求められることがたくさんあって、すごく大変だと思うので、これ以上保育園側の負担を増やすことは心苦しいです。

(会長) サービスを知らない人もいると思うのでPRしてもらいたいです。ひとりで頑張っているお母さんもいると思いますので、安心して子育て出来るようにしてもらいたいです。

(委員) シルバリーハビリ体操について、会場は何カ所でやっていますか。

(会長) 4カ所です。各地区の市民センターです。

(委員) そこまで行く足がない人もいるので、地域まで来てもらえればいいと思います。

(事務局) 4カ所でやっているのは指導員の養成講座で、その講座で指導員の資格を取った方が、地域や自治会単位で活動していくような展開を想定しています。

(委員) 介護が必要な家族がいますが、自分たちが仕事で家を空ける時が心配で、施設の利用を考えていますが、なかなか入所できないという話も聞いて不安に感じています。

(会長) グループホームとかショートステイとかホームヘルパーとかもあるので、ケアマネさんに相談してみるといいと思います。

(事務局) 資料2のA B C Dの評価についてのご意見がなければ、この通りに進めさせていただきますがいかがでしょうか。

(委員一同) なし。

(3) 鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について（資料3）

説明：政策企画課 主査

質疑応答

(委員) 仕事で地元企業の説明会に参加するのですが、中高生話を聞いていると、いずれは鹿角市に戻りたいけれど、一度は出なければならないという声が多いです。魅力のある地元企業とはどういうことなのか、日々考えていますが、雇用の受け皿としては元気な企業でなければいけないと感じています。

(委員) 雇用とか人の流れに関して、最終的には戻ってきたいけど一度鹿角を出るというお話でしたが、私はそれでいいと思います。鹿角がどういうまちになりたいのか最終コンセプトが分からないのですが、鹿角が、みんなが戻りたいと思えるまちを目指しており、子どもたちもいずれは戻ってきたいと言うのならそのイメージはできているし、急がなくてもいいと思います。私も地元を出て鹿角に来ましたが、一度は地元を出た方が、子どもたちのためになると思います。出ようとする子どもたちを縛り付けるよりは、いつでも戻ってきてもいいよ、たくさん経験して帰ってきてね、というコンセプトで行けば、最終的には戻ってきたくるのではないかと思います。今は、戻ってきてくれないから困っているのだと思いますが、その子たちが安心して戻れるようなまちにすればいいのではないかと思います。

(委員) 農業に関しては、農業法人でも高齢化が進んで、次の世代が入ってこないのが、悩ましい状況です。私はぶどうに取り組んでいますが、高齢化の中では新しい作物をやろうとする仲間もなかなか増えてこないです。

(委員) 一度外に出た方がいいという話がありましたが、私も10数年くらい関東に住んでいて、やっぱり住めば都で、本当は帰ってきたくないという気持ちがありました。跡継ぎのために帰らなければならなくて、子どもが保育園の時に奥さんを説得して戻って来ましたが。奥さんも関東の出身で、最初は嫌がったのですが、やっぱり住み慣れると、鹿角にいい所がたくさんあるので、しまいには奥さんの親も鹿角に移って来ましたが。外に出て比べれば見えるところもありますが、戻るきっかけがないと難しいので、魅力のある鹿角であればいいと思います。

(会長) 都会でできないことが鹿角でたくさんできると感じています。鹿角には温泉や山など、いい所がたくさんありますが、例えば八幡平の山や十和田湖には他県の人たちはたくさん来ているけれど、鹿角の人は来ていないように感じます。鹿角の人をもっと楽しめればいいと思います。

(事務局) どういう鹿角を目指せばいいか、いろいろな方向からご意見いただきました。人それぞれだとは思いますが、スキルアップして戻ってきてもらうにしても、自己実現の場がないという声も聞きますし、給料を比較して、生活していけるのかという不安の声も聞きますので、戻りたいと思う人が戻れるまちにしていきたいと考えています。移住して起業されている方の中には、面白い取り組みをされている方がたくさんいます。そういう方を見て、自分も戻って何か出来るのではないかと考えてもらえるような雰囲気づくりと情報発信をしていきたいです。

農業経営体に関しては、なかなか代替わりが進まない状況で、課題であると捉えています。定年退職した方が入ることも確実ではないですし、新規就農者の方が入ってくれば持続性が持てると思います。

(事務局) 今日はたくさんのご意見ありがとうございました。今日のご意見を実施計画の見直しに生かしたいと思います。

4 その他

5 閉会 (20:35 終了)